

令和5年度 第1回奈良県学校・地域パートナーシップ事業 地域学校協働活動推進員等連絡会 実施報告書

- 1 日時 令和5年6月28日(水) 【第1部】10:00~11:50 【第2部】14:00~15:50
- 2 会場 奈良県立教育研究所 大講座室
- 3 参加者 学校・地域パートナーシップ事業における地域学校協働活動推進員等 計94名
- 4 内容 10:00~10:05/14:00~14:05 開会
10:05~10:30/14:05~14:30 行政説明「地域と学校をつなぐ地域学校協働活動推進員等の役割」
奈良県教育委員会事務局 人権・地域教育課 指導主事
10:35~11:35/14:35~15:35 講演「地域コーディネーターとして大切にしていること」
奈良県CSアドバイザー 新谷 明美
11:35~11:45/15:35~15:45 質疑応答
11:45~11:50/15:45~15:50 閉会

5 講演の概要

「子どもたちの学び、育ちにとって何が必要なのか」、「そのために地域は何ができるのか」を協議、共有し、学校と地域の協働活動を「支援」から「協働」にするために、地域コーディネーターとして大切にしていることについて御講演をいただいた。



【第1部】対象：各市町村の経験年数が3年以下の地域学校協働活動推進員等、地域学校協働活動推進員等になりうる方(ボランティアリーダー等)

- ・ボランティアとして参加してもらう際のルールを作ることは、子ども、ボランティア、学校が気持ちよく活動する環境を作るためと、子どもたちの学びに繋げるために必要である。行動を起こす前に、あらゆる可能性を考えて準備を行うことが重要である。
- ・活動を行う際に、「子どもたちの学びに繋がっているか」という観点で、学校とボランティアの思いのすり合わせが必要である。
- ・子どもたちのために活動したいという思いをもったボランティアが、自分の得意な分野を生かした活動をしてもらえるように、より多くの情報と場を提供するように心がけている。
- ・学校と地推員等が、子どもたちの学びに何が必要かを協議、共有し、役割分担を明確にすることが重要である。そのうえで活動をコーディネートすることで、子どもたちにとって意味のある「協働」の取組になる。
- ・学校の立場になって、学校の代わりにボランティアに「ありがとう」と感謝を伝えられる存在が地推員等である。
- ・子どもたちのためになる活動となるよう、多様な対象に向けて「伝える」ことと、コーディネートすることを「面白い」ことを通して「楽しんで活動を進めていくこと」が大切である。

【第2部】対象：各市町村の経験年数が4年以上の地域学校協働活動推進員等

- ・学校と地域が共有した目標に沿った活動をコーディネートすることが大切である。
- ・地推員等の役割は、「活動の場が子どもたちとボランティアが主役になるように」そして、「活動の内容が学校と共有している目標の達成に向けた活動となるように」コントロールすることである。つまり、活動の場を目的に合った「協働の場」にコーディネートしていくことである。
- ・支援活動がないと連携は生まれない。また、連携がないと協働は生まれない。つまり、一足飛びに「協働」になることはない。それぞれの学校・地域で「協働とはどのような状態か」をしっかり協議して目標を定めることで「協働」を目指してほしい。
- ・学校と地域の協働活動をコーディネートし、持続性をもった活動にすることが重要である。
- ・地推員等が、学校とボランティアの思いを受け止めることを通して、協働の場に反映させる役割が重要になる。
- ・地推員等は、調整役であり、学校と地域の緩衝材である。両者の思いをうまく伝えて、子どもたちの学びに繋がる活動を展開できるように意識してほしい。そして、自身の活動を無理なく「楽しむ」ことを大切にしてほしい。

※地推員等…地域学校協働活動推進員等

6 感想

- ・「学校や子どもたちのために」という目的のもと、地域の力を学校に取り入れることの大切さを理解することができた。
- ・自分自身と学校・地域との関係性がよく分かり、足りない部分が明確になった。
- ・実例が豊富で分かりやすい内容であった。ボランティアのルール作りや「断る」という役割等、改めてよく分かった。
- ・自分自身の役割は何かを考え、「楽しむ」ことを大切に活動していきたい。

